

Akita the Great

「第29回国民文化祭・あきた2014」応援事業

大いなる秋田東京公演2014

2014年9月15日

東京芸術劇場コンサートホール

開場13:30 開演14:00

入場料 2000円(全席指定)

チケットのお求めは

ホームページ <http://www.akita-great-tokyo.org/>

イープラス <http://eplus.jp/>

東京芸術劇場ボックスオフィス(芸術劇場1階)

秋田ふるさと館(有楽町交通会館1階)

指揮者 佐々木 新平

曲目 スメタナノ交響詩「モルダウ」(連作交響詩「我が祖国」より)

シベリウスノ交響詩「フィンランディア」

石井 歓ノ合唱とプラスのための楽曲「大いなる秋田」

演奏 大いなる秋田東京公演記念吹奏楽団・合唱団

主催 大いなる秋田東京公演2014実行委員会

後援 秋田県 秋田県教育委員会 秋田魁新報社

A B S秋田放送 A K T秋田テレビ A A B秋田朝日放送

<http://www.akita-great-tokyo.org/>

佐々木 新平



第29回 **国民文化祭・あきた2014**
平成26年10月4日(土)~11月3日(月・祝)



指揮：佐々木 新平 / Shimpei Sasaki



秋田県生まれ

秋田県立秋田南高等学校、東京学芸大学教育学部芸術文化課程音楽専攻（音楽学）を経て、桐朋学園大学にて指揮を学ぶ。

2006年、ルーマニア・ブラショフで開催されたディヌ・ニコレスク国際指揮者セミナーに参加。期間中ガラ・コンサートに出演し、ブラショフ・フィルを指揮する。

2008年、2009年と上野学園大学にて「下野竜也氏による指揮マスターコース」を受講、同氏の指導を受ける。また期間中成績上位者として選出され、同大オーケストラを指揮する。

2010年より2年間、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団指揮研究員をつとめ、飯守泰次郎、矢崎彦太郎両氏をはじめとする指揮者のもとで研鑽を積む。

在任中はアシスタント業務のほか文化庁公演をはじめ数々の公演を指揮する。

2012年6月にはオーディションを経て最終の8人に選出され、ヨルマ・パヌラによる指揮国際マスタークラスに参加、氏の指導を受ける。

ファイナルコンサートで北オランダ交響楽団を指揮する。

2013年7月にもマドリッドにてパヌラ氏の国際マスタークラスに選拔され、世界遺産エスコリアル修道院での演奏会を指揮する。

2013年秋からミュンヘンにも居を構え、ドイツを中心にヨーロッパでさらなる研鑽を積んでいる。

これまでに東京シティ・フィル、東京混声合唱団、東京吹奏楽団、シエナ・ウインド・オーケストラ他多くのオーケストラ、吹奏楽団、合唱団を指揮。指揮を秋山和慶、小泉ひろし、曾我大介、ヨルマ・パヌラ、音楽学を久保田慶一、遠藤徹の各氏に師事。

大いなる秋田とは

ブラスと合唱のための楽曲「大いなる秋田」は1968年（昭和43年）に明治百年記念事業の一つとして、秋田県からの委嘱で作曲家・石井敏（1921 - 2009）によって作曲されました。

この年は明治元年から数えてちょうど百年目に当たる年で、全国各地で明治以来の歴史をふりかえり、次の百年への希望をこめた行事や事業が行われました。

同年の11月10日に、秋田市山王の県立体育館で作曲者石井敏の指揮のもと、県内の中、高等学校の生徒の演奏によって初演されました。

当初の企画では大編成のオーケストラと混声合唱のための楽曲として作曲される予定でしたが、当時から秋田県内では中、高等学校の部活動を中心として吹奏楽活動が盛んであり、かつ「この楽曲が県内の各地で演奏され、広く県民に親しんでもらえるように」という考えから、現在の吹奏楽と混声合唱との楽曲として作曲されました。

こうした考えが実を結び、現在では毎年県内の各地で「大いなる秋田」が演奏されています。当時の吹奏楽には無かった、混声合唱との非常に斬新な試みが入り入れられたこの楽曲は、秋田の地に深く根付き、演奏者、聴衆の心を魅了し続けています。

曲は四楽章構成で、それぞれ第一楽章「黎明」、第二楽章「追憶」、第三楽章「躍進」、第四楽章「大いなる秋田」と表題がつけられています。文字通り「大いなる秋田」テーマとした曲として、秋田の豊かな自然、風土、古くから伝わるわらべ歌、にぎやかな祭りなど多彩な秋田の魅力を表現し、色彩感あふれる楽曲となっています。

また、当時の小畑勇二郎秋田県知事による「曲中に忘却された成田為三の県民歌を」という強い要望から、成田為三（1893 - 1945）作曲の「秋田県民歌」が第三楽章に組み入れられました。ただし、作曲時には第三楽章には県民歌の合唱が加えられておりませんでした。しかし、その雄渾なメロディが再認識されたことで「県民歌を歌いたい」と県民から声が挙がり、作曲の後に「秋田県民歌」の合唱が加えられることとなります。第四楽章では一般公募により作詞、作曲された「秋田県民の歌」が挿入されています。

●秋田県民歌

1930年（昭和5年）に制定された県民の歌。作曲は秋田県出身の作曲家・成田為三。作詞は一般公募により、作詞家・倉田政嗣。成田と倉田は秋田師範学校の同窓生となる。また、歌詞の修正を、作詞家・高野辰之が行っている。日本三大県民歌の一つとしても挙げられ、落ち着いた曲想で滔滔と歌い上げられる。秋田県の公的な式典で斉唱されるほか、2001年のワールドゲームズ秋田大会などでも斉唱された。2010年に制定80周年を迎えた。

●秋田県民の歌

1959年（昭和34年）秋田県庁の新庁舎の記念として制作された。また、1961年（昭和36年）に控えていた秋田国体での県政の躍進という願いも込められていた。作曲者は菅原良昭。作詞者は大久保笑子。

アクセス

東京芸術劇場

〒171-0021 東京都豊島区西池袋 1-8-1

JR・東京メトロ・東武東上線・西武池袋線

池袋駅西口より徒歩2分。

駅地下通路2b出口と直結しています。

